集まれ！日本全国イチバンじまん

この都道府県が第一号！

もくじ

北海道・東北地方の第一号！

北海道　ラムサール条約湿地第一号！…… 4
青森県　ひらがな市名第一号！…… 7
岩手県　商用地熱発電所第一号！…… 5
宮城県　金の発見第一号！…… 6
秋田県　ロケットの打ち上げ第一号！…… 7
山形県　食文化創造都市第一号！…… 7
福島県　国立サッカートレーニング施設第一号！… 7

関東地方の第一号！

茨城県　エレベーター第一号！…… 8
栃木県　いちごの学校第一号！…… 8
群馬県　♨マークの使用第一号！…… 9
埼玉県　飛行場第一号！…… 10
千葉県　住宅団地第一号！…… 11
東京都　全員が手話を使いはたらくスターバックス第一号！… 12
神奈川県　公衆トイレ第一号！…… 13

中部地方の第一号！

新潟県　スキーの指導第一号！…… 14
富山県　次世代型路面電車第一号！…… 14
石川県　電子市民制度第一号！…… 15
福井県　遠隔型自動運転第一号！…… 16
山梨県　民間ワイン醸造所第一号！…… 16
長野県　ぶなしめじの人工栽培第一号！… 16
岐阜県　ダム式発電所第一号！…… 17
静岡県　うなぎの養殖第一号！…… 18
愛知県　集約電波塔第一号！…… 19

近畿地方の第一号！

三重県　真珠の養殖第一号！…… 20
滋賀県　時計博物館第一号！…… 21
京都府　中央卸売市場第一号！…… 21
大阪府　万国博覧会第一号！…… 22
兵庫県　バレンタインチョコ第一号！…… 23
奈良県　筆づくり第一号！…… 23
和歌山県　しょうゆづくり第一号！…… 24

中国・四国地方の第一号！

鳥取県　手話言語条例第一号！…… 26
島根県　鉱山遺跡の世界遺産第一号！… 26
岡山県　点字ブロックの設置第一号！…… 27
広島県　公立の妖怪博物館第一号！…… 28
山口県　クリスマスのおいわい第一号！… 28
徳島県　ごみゼロをめざすまち第一号！… 29
香川県　ハマチの養殖第一号！…… 30
愛媛県　ホッキョクグマの人工哺育第一号！… 30
高知県　森林環境税の導入第一号！…… 31

九州地方の第一号！

福岡県　近代的な製鉄所第一号！…… 32
佐賀県　磁器づくり第一号！…… 33
長崎県　鉄筋コンクリートのアパート第一号！… 34
熊本県　活版印刷機第一号！…… 34
大分県　西洋式病院第一号！…… 35
宮崎県　チョウザメの完全養殖第一号！… 36
鹿児島県　ウミガメ保護条例第一号！…… 36
沖縄県　星空保護区第一号！…… 37

まだまだある！
北海道・東北地方の第一号！…… 6
まだまだある！
関東地方の第一号！…… 13
まだまだある！
中部地方の第一号！…… 18～19
まだまだある！
近畿地方の第一号！…… 25
まだまだある！
中国・四国地方の第一号！… 30～31

まだまだある！
九州地方の第一号！…… 36～37
さくいん…… 38

マークの見方

4～37ページのマークは、その都道府県のどんな第一号を紹介しているかをあらわします。

自然・生物
自然や生きものにかかわること

農業・林業
農業（畜産をふくむ）や林業にかかわること

水産業
水産業にかかわること

工業
工業にかかわること

伝統文化
伝統的な文化にかかわること

くらし
人々のくらしにかかわること

施設・建物
施設や建物にかかわること

行事
年中行事やイベントにかかわること

交通
交通にかかわること

※この本の内容は、原則として、制作時点で公開されている最新の情報を基にしています。

近畿地方の第一号！

三重県 真珠の養殖 第一号！

真珠は貝がつくる

宝石のひとつである真珠が、貝によってつくられるということを知っているでしょうか。

貝のなかに、ぐうぜん砂や小石などの異物が入ると、貝のからだをつつむ外套膜という膜がやぶれて、異物がそのなかに入りこむことがあります。

すると、やぶれた外套膜のかけらが広がって、異物をつつみこむふくろができます。さらに、このふくろの内部では、貝がらの内側をつくっているのと同じ成分がにじみ出し、異物のまわりに少しずつ重なって層をつくっていきます。

やがて、この層がふくろのなかで何重にも重なってできるのが、真珠です。ただし、貝のなかには真珠をつくる種類とそうでない種類があります。

およそ 130 年前に成功

真珠は、数千年前から装飾品として利用されてきたといわれていますが、天然の真珠はぐうぜんにしかできないので、非常に貴重なものでした。そうしたなか、およそ 130 年前に三重県の海で、日本ではじめて真珠の養殖に成功したのが、御木本幸吉です。

現在の鳥羽市出身で、商人として天然の真珠をあつかっていた幸吉はあるとき、地元の海にいる真珠をつくる貝、アコヤガイが減っていることを知り、これを増やすとりくみをおこないました。

その後、幸吉は貝にわざと異物を入れて真珠をつくらせることに挑戦。何度も失敗をくりかえしたのち、1893（明治 26）年にはじめて真珠の養殖に成功しました。

▲養殖におもに利用されるアコヤガイ。ほかには、アワビなども真珠をつくる。

▶幸吉が挑戦をはじめた場所である英虞湾では、いまも真珠の養殖がさかん。アコヤガイをつるす養殖いかだがたくさんみられる。

滋賀県 時計博物館 第一号！

時刻を知らせた天皇

大津市の近江神宮の境内にある近江神宮時計館宝物館は、1963（昭和 38）年に設立された日本で最初の時計博物館であり、長い歴史をもつ貴重な時計などが多く展示されています。

じつは近江神宮は時計とは深いかかわりがあります。ここは、いまから 1300 年あまり前の天皇である、天智天皇をまつる神社。そして、時計を使って広く人々に時刻を知らせるしくみを日本で最初につくったのが、この天智天皇だといわれているのです。

当時は、漏刻とよばれる水時計で時刻を知り、鐘などを鳴らして人々に知らせました。

▲漏刻は、水槽が階段状にならんだつくりで、上から下へ、順に一定の速さで水が流れ落ちていく。いちばん下の水槽にたまった水は、めもりがついた矢をうき上がらせ、このめもりをみると時間がわかる。

天智天皇のころの漏刻がどんなものだったかはわかっていませんが、近江神宮時計館宝物館では、あとの時代の資料をもとに復元されたものをみることができます。

京都府 中央卸売市場 第一号！

▲100 年近くにわたって京都の人々の食生活をささえている京都市中央市場。敷地面積は兵庫県の阪神甲子園球場およそ 4 つ分の、約 14 万 7000m² におよぶ。

全国のモデルとなった

わたしたちが食べる野菜や果物は畑から直接スーパーマーケットなどにやってくるわけではありません。野菜や果物をつくる農家と、わたしたちが利用する店などとのあいだには、卸売業者とよばれる人たちがいて、農家から品物を買って店などに売るという仕事をしています。この、農家と卸売業者と店などの三者の間の品物の売買がおこなわれる場所を、卸売市場といいます。

卸売市場では野菜や果物以外にも、肉や魚もふくめ生鮮食品が広くあつかわれていて、多くの人が必要とする生鮮食品が安定して世の中に出まわるようにする役目をはたしています。

卸売市場には、都道府県の許可を受けた地方卸売市場と、国（農林水産大臣）の許可を受けた中央卸売市場があり、中央卸売市場の第一号となったのが 1927（昭和 2）年にできた京都市の京都市中央市場でした。

広島県 公立の妖怪博物館 第一号!

妖怪物語の舞台

2019（平成31）年4月、三次市に、市が運営する湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）が開館しました。ここは日本ではじめての、妖怪をテーマにした公立の博物館です。

じつは三次市は『稲生物怪録』という有名な妖怪物語の舞台。江戸時代中ごろの1749年、現在の三次市にくらす稲生平太郎という少年の前に、1か月にわたって毎日さまざまな妖怪があらわれる……という物語のなかには、いまも市内にのこる山や寺などが登場します。

妖怪とそんな深いかかわりをもつ場所にあるこの博物館には、『稲生物怪録』にまつわるものもふくめ、約5000点の妖怪に関する資料があります。

◀『稲生物怪録』のさまざまな場面をえがいた絵巻物も、館内でみることができる。

「(仮称) 稲生物怪録絵巻」(部分) 湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）蔵

山口県 クリスマスのおいわい 第一号!

キリスト教をゆるした大名

キリスト教をひらいたイエス・キリストの誕生日、クリスマスのおいわいが日本ではじめておこなわれたのは、現在の山口市だといわれています。

日本にキリスト教を伝えたのは、室町時代の1549年に、現在のスペインからきたフランシスコ・ザビエルです。ザビエルは日本のいくつかの場所で、そこをおさめる大名に会い「あなたの領地内でキリスト教を広める活動をさせてほしい」とたのんだといいます。

現在の山口県をおさめていた大内義隆は、その願いをききいれた大名のひとりで、山口ではキリスト教を広める活動が積極的におこなわれました。それが、1552年の12月9日（現在の暦では12月24日）、日本でさいしょのクリスマスのおいわいにつながることになったのです。

▲12月の山口市では、クリスマスにかかわるさまざまなイベントなどがあり、はなやかなイルミネーションも多くの場所でみられる。

徳島県 ごみゼロをめざすまち 第一号!

ごみと環境

いま、わたしたちのくらしのなかでは、リデュース（ごみを減らす）、リユース（捨てずにくりかえし使う）、リサイクル（ごみを資源として再利用する）の3Rを意識することが大切になっています。なぜなら、わたしたちが毎日のように出すごみは、正しく処理されなかった場合はもちろん、燃やしたり、どこかにうめたりする場合でも、環境に影響をおよぼしてしまうからです。

そうしたなか、ごみについて全国でもとくに進んだとりくみをおこなっているのが、上勝町です。このまちは2003（平成15）年に日本ではじめて「ゼロ・ウェイスト宣言」をおこないました。「ウェイスト」は英語で「ごみ」をあらわすことば。「ゼロ・ウェイスト」は、「ごみを出さない社会をめざす」という意味です。

いらないものをごみにしない

上勝町には、ほかの地域ではあたり前の、ごみ収集のしくみがありません。いらないものが出たら、町民ひとりひとりが、それをただのごみにしないための行動をとります。

たとえば生ごみは、微生物の力を借りて各家庭で肥料にかえます。それ以外のものは、町内のゼロ・ウェイストセンターにあるゴミステーションへもっていき、資源になるものは細かく分別してリサイクルへ。自分には必要ないけれど、まだ使えるものは、くるくるショップという施設にもっていけば、それを必要とするだれかが使ってくれます。

このしくみによって上勝町では、燃やしたりうめたりしなければならないごみは非常に少なくなりました。そしていまも、役場、町民、企業や商店などが協力し合って、「ゼロ・ウェイスト」の実現に向けたさらなるとりくみをつづけています。

▲ゴミステーション、くるくるショップなどがあるゼロ・ウェイストセンターは、空からみると「?」マークの形。

▲ゴミステーションでは、いらないものを45種類に細かく分別し、効率的にリサイクルできるようにしている。

▲くるくるショップにおかれた、だれかのいらなくなったもののなかに、自分にとって必要なものをみつけたら、無料でもち帰ることができる。